本を選ぶ

高校図書館版

NO. 3　1987年(昭和62年)5月15日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本　社（〒162）東京都新宿区下宮比町15 飯田橋ハイタウン518 TEL 03-235-6168

ぶっく・えんど

建築としての学校図書館

先頃、ある市の図書館計画のお手伝いをした。連絡船で30分ほど行った湾内に３つの島があるので、離島の人たちへの図書館サービスをどう進めたらよいかを考えるために、その土地には珍らしい大雪のなか島々を訪れた。

島の小学校は一見してそれとわかるコンクリート造２階建ての学校スタイル。職員・校長室と学年の数だけ教室が並んでいて、裏に体育館がついている。日本中どこにででも見られる８ｍ四方くらいの教室の中央にちんまりと机を集めて、４人の生徒と若い女教師が何か工作物を作っていた。この規模では特別教室の割り当てがないのでオルガンなどは大漁旗がはためく体育館の用具置場に押し込められているし、図書室は苦心の作、２階廊下の端、つまり階段を上ったところに書架をいくつか並べ読書机をひとつ置き、島出身の人からの寄贈書の書架は階段途中の踊り場に並べられていた。

これは小学校の例ではあるが、学校建築に対する今の日本での考え方を端的に現わしている。

こういうところでこそ資料センターを中心にして、それぞれの学習に適した小空間を配するという計画を考えるべきであろうが、とにかく“数”を基にして機械的・事務的にコトは進められてゆく。その点では小学校も高校も同じであろう。

生徒数予測がつかめれば学級数が決り、特別教室の数も決り、総面積も自動的に決ってくる。公立なら教育委員会の施設担当職員が、予算要求のための資料としてシングルラインの配置・平面図をさっと作る。なれた人なら１時間もあればできてしまう。これがやがて営繕課へ手渡され、幾分の修正はあるものの基本的には変らずに地元の設計事務所へ設計委託になる。事務所では学校設計の仕事は決った内容で面白味はないものの、若い者の図面書きの訓練には良いくらいの取り組みでさっと仕上げる。多くの場合、教育現場の学校職員との直接的な接触はあまりなされないか、してもらいたくないような雰囲気がある――これがごく一般的な学校建築設計の流れであろう。そこには学校図書館という概念さえない。あるのは特別教室のひとつ、それも授業に使わない大部屋として最上階の端に置かれる図書室、これが今だに一般的な扱われ方ではなかろうか。

ところが建築学の研究としては学校計画は進んだ分野なのである。秀れた研究も多く、『学校建築　計画と設計』（日本建築学会　1974年）などの本も出版されていて、興味深い外国の例や、秀れた日本での実例が数多く紹介されている。ここでは図書室は特別教室群とは別に“共通学習用諸室”として把えられている。

公立図書館の建築がどうあるべきかは、大きな流れとしては方向が見えている。いま学校図書館のあり方を考えていく上で学校建築、特に計画段階の流れにもっと目を向けなくてはならない。

（本田　明：建築家）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

出版情報を求めてあくせく

田中耕一

校務分掌の異動で図書部に移ってから、驚くことの連続だった。司書のFさんから実情を聞くと、それは文字どおり想像を絶するものだった。除籍した本の基本カードが大量になくなっており、基本カードもまちがいが多いので、Fさんはなんと図書の原簿によって蔵書点検をしたというのである。

私の勤務する高校は田園の中の小さな市にある。そこには公立の図書館と呼べるほどのものはない。いくつかの書店はあるがそこにある書籍の数はいうに足りないものである。しかも書店の人はあまり本にくわしくない。司書のFさんは着任早々に地元の書店に行き、「日本書籍総目録」を見せてくれるようにたのんだところ、置いてないことを知り、驚きかつあきれたという。そこで彼女はやむなく、乏しい—わずか60万円—予算の中から「日本書籍総目録」全三冊を購入したのである。普通、学校の図書館であれば出入りの書店や出版社から出版目録や内容見本、出版案内がどんどん手に入るはずである。Fさんは前任校の感覚ではじめはそう思いこんでいたそうである。ところが一年間のうちにほとんどその種のものが手に入らないことがわかり、再び驚き、あきれたという。

そういう訳で部長も入れて三名しかいない図書部ではもろもろの仕事を兼け持ちで担当しているが、出版情報を集めるのもたいへん重要な仕事となった。幸いといおうか、私は本の内容見本を集めるのを趣味としていたので、この仕事を自分から買ってでた。（なぜ内容見本を集めるのを趣味としていたか。理由は簡単である。金がないので高価な個人全集は買えないから、せめて内容見本を手に入れて、心を慰めていたのである。そのうちにこれが昂じて集めること自体に凝りだした。）

この五年間に収集方法については改良を重ねて現在ではつぎのようなやり方を行うことにした。

官製はがきにコピー機で文面をコピーする。これを手分けして宛名書きをする。この仕事は生徒の図書委員にも協力してもらう。現在、本校の図書準備室にファイルしてある出版目録は三百を越えている。これをすべて官製はがきで目録の送付を依頼すると一万円を優に越える。そこで県庁所在地の書店にゆき、目録やパンフレットなどをせっせと集めてまわる。また、出入りの書店を通じて手にはいるものはできる限り入手する。それから購入した本に入っているはがきの中で切手を貼らずに出せるものはそれを用いることにした。こんな方法を用いて昨年は切手・はがき代は四千円前後に抑えた。この第三のやり方は手間はかかるが費用の節約にはなる。県庁所在地にある、私の行きつけの書店でこの種の葉書はずいぶんともらった。

入手した目録のうち、背文字のあるものは五十音順に棚にならべ、薄くて厚みのないものは、出版社毎に透明ファイルに収め、それをア行ならア行のボックスファイルに入れ、透明ファイルにはタックインデックスをつける。これでよくわかる。

内容見本は分類別に黄色のボックスファイルに収め、新聞・雑誌の広告でこれはと思うものはすぐコピーをし、すぐ分類別に緑色のボックスファイルに入れる。

書評などで継続的にコピーをとっているのは「出版ニュース」「朝日ジャーナル」「暮しの手帖」「栄養と料理」「科学朝日」「週刊文春」「音楽の友」「パーソナル」「オレンジ・ページ」「毎日新聞」の「女のしんぶん」であり、よくとるものに「クロワッサン」「朝日新聞」の「日曜版」がある。新聞の書評はコピーを切りはりするのがめんどうで長続きしないのでやめてしまった。雑誌はコピーをすればそのままファイルできるので手軽であり、続けやすい。それにしても思うことだが、新聞の書評欄のつまらなさに比べて雑誌の書評や新刊紹介は実におもしろい。特に女性雑誌の書評や本の紹介はおもしろい。

まだ充分とはいえない出版情報の収集であるが、その数がふえ、いろいろなおもしろい本があることがわかるにつれ、ますます深まる悩みがある。それは予算の乏しいことである。集めた目録や書評・広告をもとに購入した本のリストをつくるとたちどころに予算を超過してしまうのである。この五年間、私は慢性的な欲求不満の中にいる。購入したい本に対してあまりにもお金がないのである。

（島根県立平田高等学校）

ヤングアダルト図書総目録

立風書房
青木富一



ヤングアダルト図書総目録1987年版
A５判／256頁／頒価300円
ヤングアダルト図書総目録刊行会発行
東京都新宿区東五軒町6-24東販内
(03)269-6111

ヤングアダルト（略称ＹＡ）とは「若い大人」という意味です。ティーンエイジャーにあたる、中学生から高校生あたりの年齢の若者たちを指します。どんな本を読めばいいのか、どんな本が自分にしっくりくるのか、そのことがわからないために読書から遠ざかりがちな世代でもあります。日本の読書界の中にあっても、ＹＡにあたる中間項はなく児童書から一足飛びに大人の領域に接しています。活字離れが言われているいま、ＹＡにふさわしい領域での出版、読書環境の育成は急務とさえ思われます。一方ここ十年程前からアメリカではＹＡ出版がさかんになり、書店、図書館では、はっきり大人、ＹＡ、児童と棚が三つに別れて存在しており、ＹＡ出版とその環境はいよいよ活況を呈していると聞いております。

『ＹＡ図書総目録』は、この日本の現状からＹＡ図書の出版を活発にし、「若い大人」と彼らにふさわしい本との出会いを目的として57年３月に創刊されました。以来、毎年３月に刊行し今年で６冊目を迎えます。

『ＹＡ図書総目録』は13歳から19歳までの読者を対象としたあらゆる本（文庫と学習参考書はのぞく。）を対象にします。分類は大分類についてはＮＤＣに準拠しながら、小分類はＹＡ図書の性格を反映した独自の48項目を設けました。

総記
書物と読書／百科事典と年鑑／双書・全書と全集
哲学・宗教
哲学のすすめ／人と思想／心のなぞをたずねる／私たちはどう生きるか／神話と宗教
歴史・地理
歴史のすすめ／日本の歴史／世界の歴史／人々はどう生きたか／地理のすすめ／日本をあるく／世界をあるく
社会科学
社会科学のすすめ／私たちの生きる社会／学校生活と教育／文化と民俗
自然科学
自然科学のすすめ／理化学と数の科学／地球と宇宙の科学／生きものの科学／体の科学
工業・技術
工業技術の世界／エレクトロニクス／模型と工作／くらしの科学
産業
自然と産業／生活と産業
芸術
芸術のすすめ／美術とデザイン／音楽と舞踊／映画と演劇／スポーツと体育／諸芸と娯楽／絵本
語学
ことばの世界／日本語／英語
文学
文学のすすめ／日本の小説／日本の評論・随筆／文学全集／詩　歌／推理とＳＦ／ノンフイクション／海外の文学

配列は各小項目ごとに書名またはシリーズ五十音順で44字の解説がつきます。また各書目末尾に中学生むき、高校生むき、中高校生むきと３ランクの読者対象を指示し、巻末に、シリーズ索引、書名索引、著者索引を付しました。『ＹＡ図書総目録』は '87年版で、掲載出版社数102社、点数3039点を収録しました。

日頃、私たちは書店で図書目録の必要にせまられたとき、該当目録のそれを期待どおり手にできることは奇跡に近いものがあります。60年にＹＡ出版会が公共図書館と高校図書館に5000通の新刊ＤＭをおこない、670通の回答を得たことがありました。その回答中、実に86.6％にあたる580図書館から『ＹＡ図書総目録』の送付請求がありました。図書流通の欠陥が指摘されるいま、逆に図書目録の必要性を強く感じさせられたことでした。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ヤング・アダルトの場について
—児童文学をもっと学校図書館に—

市川澄子

何か書いて欲しいと突然頼まれ、どういうわけか引き受けてしまいました。何のイメージもないのに受けたのかと言うより、ちょうどヤング・アダルトについて赤木かんこ氏の文章を目にした直後だった事がきっかけだったように思います。以前、私自身、東京都の学校司書会の研究誌「がっし」に『ヤングアダルトと本』というタイトルで書いた事があるのですが、いまだにこのヤング・アダルトということばは、どうにも私にとってはとらえどころのないところがあります。そこに赤木氏の文（「鳥賊」べっさつ26—ヤングアダルト本特集—）が飛び込んで来たというわけです。赤木氏（児童文学同人誌「鳥賊」編集長。著書に『こちら本の探偵です』）の文を紹介する前に、ヤング・アダルトについてその枠組を。

ヤング・アダルトということばは、晶文社の中村氏の資料によれば、アメリカの公共図書館が第２次大戦後ティーンエイジャーを大人として遇すべきだという考えから使い出した言葉であるようです。司書が児童・ヤングアダルト・成人の三つの部門ごとで採用されたのは1957年からで、ニューヨークの公共図書館では、ハードカバーだけで１万冊から２万冊のヤングアダルト図書が置かれているそうです。書店でも、ヤングアダルトの棚があり、出版社でも1977年頃からペーパーバック版を出すようになってこの部門が急成長したようです。出版社は、独特の装訂を心がけ、現在では児童作家でなくヤングアダルト専門の作家も出てきているようです。ヤングアダルト本の出版の主流はフィクションであり、プロブレム・フィクションだと言います。このプロブレム・フィクションはなんと学校図書館の要請によって盛んになったというのです。問題——暴力・麻薬・家出・両親の離婚・中絶・人種問題——これらの直面する問題を教師が多くの問題小説を読ませてそれを通して自らの取る方法を選ばせるというわけです。人生のハウ・ツーものというと語弊があるかも知れませんが、いかにもアメリカ的だなと私など思いますが。日本の公共図書館では小学校高学年より登録者が次第に減ってゆき、中学生にいたっては激減するという現状の危機意識から、1980年頃よりヤングアダルトサービスが大きくとりあげられて来ているようです。図書館の中にコーナーを作る事からこのサービスが始まっていてコーナーの名称は、中学生、ジュニア、ヤング、ヤングアダルト等色々な使い方がされています。児童・一般のように、確立されたスペースとは違い、今のところコーナーと位置されている所がほとんどのようです。

さて、ことばの発生はアメリカであり、図書館からの発想である事はわかりましたが、もう一度ヤングアダルトとは何でしょう。文字通り訳せば、“若い大人”となります。では若い大人とは何でしょう。子どもでなく、大人になる前の人間、大人とならんと変化している時を持った人間、精神も肉体もです。では、なぜ、ヤングアダルトと言わなければならなかったのでしょう。なぜ従来のティーンエイジャー、思春期ということばでは置き換えられない、ことばが必要になったのでしょう。それ程多くの人間が使っていることばでない事は確かですが、必要な状況が生まれている事も片方にはあります。ここで、赤木氏の文ですが、「そういう人種があらわれたからだ。」と言います。そして、1967年のカニグスバーグの児童文学『クローディアの秘密』をあげて、主人公のクローディアを指して、「友達ができない、人とコミュニケートすることができない。したいという欲求をあらわに感じることができない。したいという欲求をあらわに感じることができない。感じても出せない。」というこどもを主人公にしたのがヤングアダルトを描いた作品だとしています。そして、「このことは、子どもだけでなく、大人をもというか、むしろ逆に大人がそうだから、子どももそうなんだってことなの。だから子どもの本は、大人が読んでおもしろいんだよ。」「今の私たちのモンダイはこれにつきるのだ！」と言います。そして、この作品の発表、1967年を、ヤングアダルト本の、ある分岐点と考えているようです。そして、

こういう状況をなんとかしようと生まれた文学が、１つはヤングアダルト、もう１つは、ファンタジーだと言い、そしてそのファンタジーは、ＳＦから、ヤングアダルトは児童文学から、派生したものだと言っています。そして、「1980年以降小学校高学年以上の本はほとんどヤングアダルトとみてマチガイなし。特に北欧系のものは100％」と言い切っています。この何年かで、確かに児童文学からそういった作品、それも質の高い良い作品が出ているのは私も認めるところで赤木氏のこの文で、かなりの作品が出てきているな、そういう時が来ているなと確信したわけで、ヤングアダルトがなんとか、その様相を呈してきているように私には思えたのです。ただ、相変わらず軟弱にもヤング・アダルトでなく、ヤングアダルト本となると私にはこれがヤングアダルト本なのだ、という分け方ができず、ヤング・アダルトコーナーに置く本、ヤング・アダルト向けに書かれている本という位置づけしかできません。今は、あえて児童文学の幅の中で考えたいと思います。ただこれは、あんまり差はない事かも知れませんが。

ヤング・アダルトの起こりが、児童文学からか、問題解決カウンセリング的なものからか、図書館の部門わけからか、いずれにしても、そこにはヤングアダルトという枠付けをしなければならない人間があらわれてきた事には違いないように思います。そして、その背景には、人間疎外という根があるのではないかと私は考えます。今、「成年式」とか「通過儀礼」というものが外的には得られない時代となっています。この20世紀にあって、大人となる、成人、社会の成員となるとはどういう事なのでしょうか。外から与えられなければ、自らが内から課していかなければならない経験とはなんでしょう。その事を思う時、次の文を私は思い浮かべます。

「児童文学の領域には、すでに人間の闇の世界に形を与えようとしたものがいくつかあった。アーシュラ・ル＝グウィンの『影との戦い』にはじまる「ゲド戦記」全三巻（清水真砂子訳・岩波書店・1977）がそれだし、ウィリアム・メインの『闇の戦い』（神宮輝夫訳・岩波書店・1980)、Ｅ・Ｌ・カニグスバーグの『ぼくと〈ジョージ〉』（松永ふみ子訳・岩波書店・1978）がそれである。――中略――それは人間の闇の領域に形を与えたものである。それがどのような意味を持つものなのかは、河合隼雄の卓抜な分析（『人間の深層にひそむもの』大和書房・1979）があるから割愛するとして、ここで児童文学における「闇の照射」が、ジキル博士の背後にひそむハイド氏の摘出だけにあるのではないということを指摘しておく必要があるだろう。

破壊性。屈折した情念。反合理性。動物的衝動。死への恐怖。その他。それは確かに、人間が意識の領域から排除したものであった。しかし、それら闇の世界に光をあてることは、決して人間を限定するものではないということである。たとえそれが、人間の日常生活に危機をもたらすものであるにせよそれを照射することは、結果として、人間の復権につながっている。」

―上野僚『早稲田文学』1981・３月号「なぜ闇なのか」より。―

若いとは何かと問う時、それは古くて新しい命題、自分自身は何なのかと問う所から始まるのではないでしょうか。そして、それは、自らの闇を通るところから、闇を知るところから始まるとも言えるのではないでしょうか。「自己を倒壊させることから始めた者こそが、自己の関心事を最も良く貫き通すのである。」このことばも、それを言っていると思うのですが。

で、この経なければいけないところをあらわし、その一つの役割を持つのが、ヤング・アダルトというジャンルにあるというと独断すぎるでしょうか。そして、つぎに、ヤング・アダルトを、ジャンルとして確立し、他と分けなければいけない必要性はなにかという事です。

それは、いつもこれがヤングアダルト本だという線が引かれてはいない訳なので、図書館のように本を専門に区分けし、ある一定の場所において便宜を計る所では、そういう分野の為の〈コーナー〉がなければ、本は、闇にほうむられるという事になります。あるいは、他の部門（公共図書館では児童とか一般）にまぎれてしまいます。本を排除してゆく事は、そういう利用者も排する事になります。ヤングアダルト本は、場所があって初めて浮かびあがる質を持っていると言えると思います。私達の仕事が、本をそのふさわしい読者に結びつける事なら、その場（＝選書して、その本の場所を与える）を存在させる事なのです。

つい最近、昼休みの事です。かなりにぎやかな声があがったので顔をあげると、生徒が、「図書

館にくると、なんかなごやかになって話したくなるんだよな。」「教室とは違うんだよ。」という声が耳に入りました。おしゃべりのミエミエの口実とはいえ、私などは「ふむふむ」と見て見ぬふりを決めこんだものです。彼らには、彼らのスペースづくりがあるのですが、学校図書館も公共図書館も、ヤングアダルトが、くつろげたり、学べたりのその年代にふさわしい場があってこそ、お互いが有機的に関われるのではないでしょうか。具体的な施設作りが、もっと検討されるべきだと思います。

最後に、I・B・シンガーの『お話を運んだ馬』（岩波文庫）の冒頭を記します。

「これらの物語を、わたくしは、わが父母きょうだいの追憶にささげます。さらに、おとなになっていくことの不思議について、また生きることと愛することの謎に立ち合う不思議について思いをめぐらす読者、幼老を問わぬすべての人にささげるものです。」私達、学校司書の仕事の一端に、この〝立ち合う不思議〟を共有することがあるのではないかと思います。そうして、どうでしょう。考えてみれば、しあわせな仕事をしているとは言えないでしょうか。

（東京都立港工業高等学校）

★★

DMかたろぐ

責任編集・柳 宗玄・前川誠郎・高階秀爾

岩波美術館 全24冊（歴史館12室 テーマ館12室）

（各冊分売）B4判変型（31×26cm）上製・12ポイント活字・86頁（カラー24葉、解説38頁）別冊＝作家・作品総索引付

全24冊〈完結〉



〈歴史館12冊〉〈テーマ館12冊〉セット発売
各函入セット定価＝二七、六〇〇円

世界科学者事典
D・アボット編　日本語版監修＝伊東俊太郎
全6巻／別巻（総索31）定価各9500円（別巻8000円）
人間を通して科学を知る事典――伝記から業績のアウトラインまでが分かる、初の分野別人名事典

＊1生物学者 中村禎里監訳　5数学者 齋藤正彦監訳
＊2化学者 竹内敬人監訳　6技術者&発明家 坂本賢三監訳
＊3天文学者 小尾信彌監訳　7総索31（別巻）
＊4物理学者 渡辺正雄監訳　＊＝既刊

世界古代遺跡地図 J・ホークス著 桜井清彦監訳
世界の170以上の著名な遺跡を、2色刷のすぐれた図版（平面図、断面図、復元図）で描く名著　定価15000円

世界考古学地図 ホワイトハウス／蔵持不三也訳 12000円

原書房 〒160 東京都新宿区新宿1-25-13 ☎03(354)0374

フィールド図鑑 ●第2期●

淡水魚 川那部浩哉監修 2000円
貝類 奥谷喬司解説／楚山勇写真 2500円
海岸動物 益田一他編 2500円／**コケ** 井上浩解説 写真 2000円

かがくさろん［科学サロン改題］
季刊から隔月偶数月刊となりました。

東海大学出版会 〒160東京都新宿区新宿3-27-4 ☎(03)356-1541

中国の体育スポーツ史
A5判上製
予価3,500円
笹島恒輔 著（慶応大学体育研究所教授）
中国の古代から現代まで、体育スポーツのすべてを論じた中国体育史決定版！
今回は目録を送らせて頂きます。
(株)ベースボール・マガジン社　(株)恒文社
〒101 東京都千代田区三崎町3—10—10
☎03(238)0181

筑摩書房

新シリーズ続々刊行！

チェーホフ全集
●全12巻　松下裕［個人新］訳
第1回　10かわいい女　谷間　2400円
5月20日刊

夢二日記
●全4巻　編集　長田幹雄
第1回　1明治40年～大正4年　2400円
5月29日刊

ビジュアル版
日本の技術100年
●全7巻　監修　向坊隆・隅谷三喜男・伊木正二
第1回　4航空機・自動車　5800円
6月30日刊

101/東京神田小川町2－8　TEL.03(291)7651

東京書籍

佛教語大辞典縮刷版
中村　元／A5判1646頁18000円

近代日本**哲学思想家辞典**
中村　元・武田清子監修　峰島旭雄他編
菊判784頁9800円

漢詩漢文名言辞典
鈴木修次編著／A5判880頁6800円

版画事典
室伏哲郎／菊判本文880頁口絵128頁　11000円

東京都文京区本駒込6-14-9　〒113　☎03-942-4111

自然観察のガイド　3800円
有機化合物事典　2900円
元素発見の歴史1（全3巻第1回）　9月刊
地震の事典　12000円
中世のヨーロッパ（図説世界文化地理大百科第5回）　22000円

朝倉書店
東京都新宿区新小川町 6-29
〒162　TEL 03-260-0141

ラップ・イン・ハイスクール



セイシュンするには、今きゃない！
10代に贈るリアルタイム・ノベル。
伊藤悟「オレ、高校デヴュー！　バイクもバンドもやりたいし、なんたって彼女がほしい！」ヴァン・ヘイレンからＣＣＢまで、気分まかせのＢＧＭにのせてしゃべりまくる、花の高一、近藤くん。ちょっとナンジャクで、かなりミーハー、ちょっぴりカゲキなフツーの高校生の青春グラフィティ。　980円

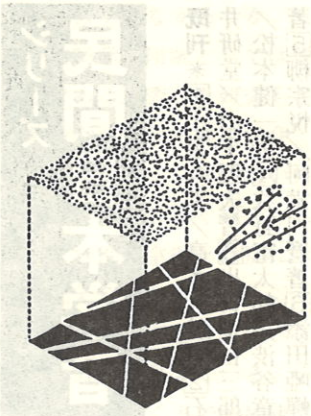
晶文社　東京都千代田区外神田2-1-12　電話(255)4501

古代へのロマンを地球規模でさぐる。
世界考古学大図典
田辺勝美監訳　●Ｂ４判・オールカラー／25,000円
▶最新の研究成果を中心に現代考古学の資料を集大成
▶1000点を越える写真・図表を収録した視覚的な構成
▶高度な内容を平易な訳文でわかりやすく紹介

手仕事のデザイン〈新装版〉
小野寺啓治著　伝統工芸の技を紹介。●菊判/2,200円

パンの歴史　W・ツィアー著　中澤　久／日本語版監修
パンと人間の関わりをたどる。●Ａ４変型／10,000円

同朋舎　本　社　〒600 京都市下京区中堂寺鍵田町2電075(343)0621振替京都5-22982
支店　東京千代田区三崎町　電(234)4982



松谷みよ子
現代民話考 第2期〈全3巻〉

四六判上製 各2000円

第1巻 **銃後** 思想弾圧・空襲・原爆 沖縄戦・引揚げ

第2巻 **学校** 笑いと怪談・学童疎開 学徒動員 〈5月下旬発売〉

第3巻 **ラジオ・テレビ局の笑いと怪談** 〈7月刊予定〉

●現代民話考 第1期〈全5巻〉各1800円好評発売中

立風書房 〒141 東京都品川区東五反田3-6-18 TEL03(447)1191 振替・東京5-74493

■図書館のみなさまへ

お元気でご活躍のことと存じます。新年度をむかえ1987年版**図書目録**をつくりました。先月までに刊行したすべての書籍が収録してあります。

シリーズで刊行した**インタビュー仕事の世界**(全16冊)は，全国の高等学校から沢山のお申込みをいただき，高校各位の仕事に対する関心の高さが伝わってきました。現在刊行中の**食の昭和史**，**産業の昭和社会史**も好評です。またご希望のむきには**宣伝誌評論**をお送りいたします。ハガキでお申付け下さい。ではまた次号にて。

東京都千代田区神田神保町3-2 電話 03(230)1661 **日本経済評論社**

既刊300点突破!—辞典づくり40余年—

定評ある東京堂の辞典シリーズ

●おすすめしたい必備図書

北村孝一編 四六判・500頁・2800円
世界ことわざ辞典

森 章司編 A5判・620頁・9500円
仏教比喩例話辞典

和達清夫監修 B5判・570頁・15000円
海洋大事典

高木重朗他編 四六判・368頁・2800円
カードマジック入門事典

東京堂出版 〒101 東京都千代田区神田錦町3-7 ☎03(233)3741 内容見本進呈

すぐに使える
英文レターの実例集

リチャード・B・マート／篠田義明 定価1,400円

社会人・大学生・高校生のパーソナル・レターのための500文例

●お祝い，お礼，お悔み，苦情，ファンレター，おわび，依頼，家族紹介，入学，就職，日本紹介……など，全体を25の項目に分類．

●各項目ごとに，基本語句，手紙別(英和)，模範文例（和英・各項目に20文例）を掲げ，文例にはていねいな注を付した．

●手紙用語索引を使えば，手紙でよく使われる表現（例：うれしく思う，くれぐれもよろしく，何かできることがあったら，お手数でなかったら……）などの例文を容易に探せるので，和英辞典的使い方ができる．

研究社出版 東京都千代田区神田駿河台2—9 振替東京7-83761☎03(291)0951

●各紙書評絶賛！ 生きた日本学を展開する書下しシリーズ。

シリーズ
民間日本学者

既刊※[1]小泉八雲／高木大幹著[2]石井研堂／山下恒夫著[3]出口王仁三郎／松本健一著[4]牧野富太郎／渋谷章著[5]柳宗悦／阿満利麿著[6]添田啞蟬坊・知道／木村聖哉著[7]長谷川伸／平岡正明著（定価1400円・3巻のみ1300円）

リブロポート

東京都豊島区南池袋1-16-22☎03-983-6191

花

安野光雅・絵／杉本秀太郎・文

季節を告げて咲く花々のみずみずしさをそのまま本にとじこめた花の画文集！

安野光雅のすぐれた色感とタッチによって画かれた花々が杉本秀太郎の軽妙なエッセイとマッチして，本書の花々にいちだんとかぐわしさを添える座右の愛蔵本です。

B5変型 カラー32頁・総72頁・上製本函入・定価三六〇〇円

安野光雅はじめての中国感動の旅から生まれたスケッチを収録！

中国故景

安野光雅・絵／中村愿・文

B5判・96頁 定価一八〇〇円

朝日新聞に連載した「李杜の国で」の挿絵全点を収め，さらに取材に同行した中村愿の同行記と，各スケッチへの解説を付した楽しい旅の本。

安野光雅の本——各一八〇〇円

ニュルンベルグの道画師／カットのエスプリきりがみ昔咄／きりがみのイラストレーション

岩崎美術社 東京文京本駒込3-39 電話03(824)1731